

目的

- ・福祉施設等で福祉のしごとに接する機会を提供し、福祉施設への関心を高め、将来の福祉人材のすそ野の拡大を図る
- ・また、保護者等にも参加してもらうことにより福祉のしごとの重要性について理解促進を図る

主な特徴と内容

<特徴>

- ・夏休みや冬休み期間に開催し、実際の福祉施設で職員からしごとの内容を聞き・体験することを重視
- ・クイズや遊びの要素を取り入れ、心に残る体験を行う

<内容>

- ・小学生5・6年生、中学生1・2年生、保護者等を対象
- ・都市部（宝塚）及び郡部（洲本）の2施設で開催
- ・利用者とのふれあいや最新の介護機器などの体験を盛り込んだ
- ・受入施設の創意工夫で、インカム体験や利用者とのゲーム交流・インタビューなども実施

成果、効果

- ・2回開催し、合計32名（子ども19名、保護者13名）が参加
- ・周知にあたり、地元の教育委員会への協力を打診し、各学校へのチラシ配布も行った
- ・介護や看護のしごとをサポートする機器や技術を実際に見て・触れて体験することで、参加者にとって「福祉の世界」や「福祉のしごと」を考える機会となった
- ・体験後に当該施設でボランティアを希望したり、保護者から子どもが進路を選択する際の後押しができる等の反応が見られた



若年層への魅力発信に取り組んでいます！